

マーケット概況（2020年5月）

5月の債券相場は、米国経済指標の悪化による株安から10年358回債の利回りは-0.035%で始まった。その後、GW期間中の4日に緊急事態宣言の延長が決定されたことで追加の補正予算に伴う国債増発が意識されたことや、欧米で経済活動の制限が緩和されるとの見方から株高債券安の流れとなり、11日に10年358回債の利回りは0.005%に上昇した。しかし、中国や韓国で再び集団感染が発生したことや、12日に実施された10年債入札の好調な結果を受けて下げ渋り、米国景気の下振れリスクを強調したFRB議長の講演や18日に実施された5年債入札の好調な結果を受けて10年358回債の利回りは-0.015%に低下した。同日の米国市場で新型コロナウイルスのワクチン開発期待から米国株が大幅高となったことを契機に世界的な株高が進み、利回り低下は限定的となった。その後は、22日に実施された臨時の日銀金融政策決定会合や第二次補正予算といった政策期待に加え、25日に緊急事態宣言が解除されたことで株式相場が一段高となる一方、世界的な金融緩和を背景に債券への売り圧力も乏しく、膠着感が強まった。月末にかけては、日銀買入オペが需給の緩みを意識させたものの下値は固く、結局、10年358回債の利回りは0.000%で今月の取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は、当月大量増発となったが国内外投資家の担保需要や国庫短期証券買入オペ増額に支えられ、金利への影響は限定的となり前月から横ばい圏で推移した。1日の3M904回債入札は、最高落札利回りが-0.09%台に上昇したが、その後は-0.11%~-0.10%台での入札が続いた。最終的に3M911回債は、-0.109%で取引を終えた。また6Mは、入札回数が増加したものの投資家需要は旺盛で、概ね-0.1%台後半で堅調に推移し6M910回債は-0.196%で月内の取引を終えた。

<一般債市場>

シ団方式の10年政保債の発行がなく、前月に続きベンチマークになった新発10年地方債は、前月比同水準の国債カーブ+13.0bpの条件で起債され、クーポン水準も概ね前月債並みであったことから順調に消化された。5年地方債は当初クーポン上昇の可能性があったものの、投資家の資金運用ニーズが強いことから、前月と同水準の0.02%で決定した。既発債は、政保債・地方債ともに比較的良好な需給状況が継続した。社債発行額は西日本旅客鉄道の大型起債や電力各社の起債を中心に6,770億円となった。新型コロナウイルスの影響による経済情勢の先行きに不透明感があるものの、日銀の社債買入オペが拡充された中短期債や高格付け発行体の超長期債には旺盛な投資需要が集まり、増額発行となる銘柄もあった。

◎ 主要債券月間四本値 ◎

| 銘柄 | 始値 | 高値 | 安値 | 最終出来値 |
|------------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| #358 | -0.035(1日) | -0.040(1日) | 0.005(11日) | 0.000(29日) |
| #357 | -0.045(1日) | -0.045(1日) | -0.005(11日) | -0.010(29日) |
| #347 | -0.160(1日) | -0.160(1日) | -0.105(29日) | -0.105(29日) |
| #143(5Y) | -0.150(1日) | -0.150(1日) | -0.115(11日) | -0.130(29日) |
| #172(20Y) | 0.305(1日) | 0.300(1日) | 0.350(19日) | 0.350(29日) |
| #905-#910TDB(6M) | -0.125(7日) | -0.200(25日) | -0.125(7日) | -0.196(29日) |
| #904-#911TDB(3M) | -0.130(1日) | -0.150(8日) | -0.098(29日) | -0.109(29日) |